弊社が国内ディストリビュータをつとめるネイティブファイルシステム共有を実現するmetaSAN / metaLANの開発元、Tiger Technolorgy社は去る4月にラスベガスで開催されたmetaLANの新バージョン5.0へのメジャーバージョンアップを発表いたしました。

■metaSAN **■**metaLAN

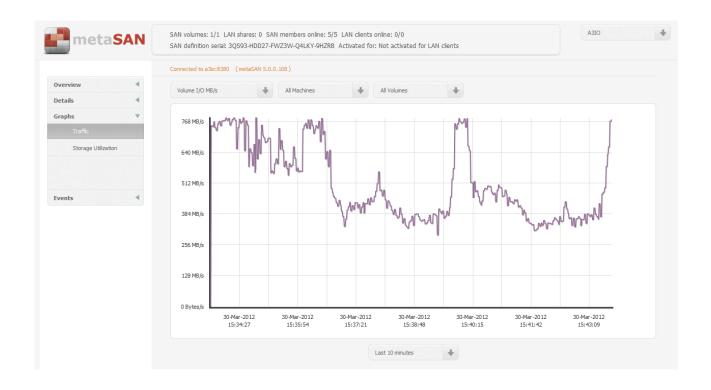
今回のバージョンアップではmetaSANのロゴがご覧のように変わりました。それと合わせて バージョンアップで特筆するべきこととして、metaSAN / metaLANクライアントのストレ―ジへのアクセス性能が向上し、MacクライアントがActive Directory 認証に対応したこと等、従来からの機能強化や追加が行なわれました。 さらに、今後のmetaSANの方向を指し示す新たな機能が追加されました。

まず、metaSANの内部機能として、「Dashboard Management」と「ProjectStore」の二つのユーザーインターフェースがWUIベースで用意されました。また、metaSANにバンドルされたストレージの仮想化ソフト「CluStore」が追加されました。以下にこれらの新機能を簡単にご紹介いたします。

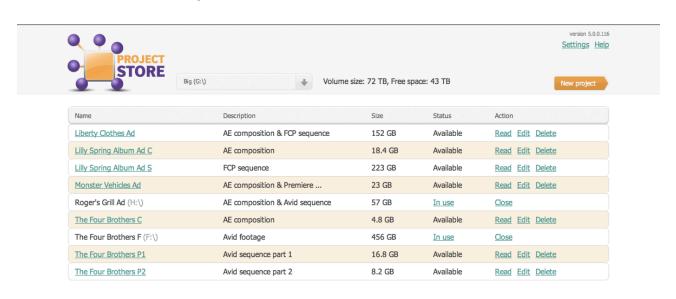
Dashboard Managementは、複雑な共有ストレージのSAN構成や、SANに接続するmetaSAN / metaLANメンバーのステータス等、metaSAN ネットワーク全体をブラウザーベースのインターフェースに表示します。 ストレージの使用状況、metaSANメンバー、metaLANメンバーのSANへのログイン状況等を一目で見ることができます。



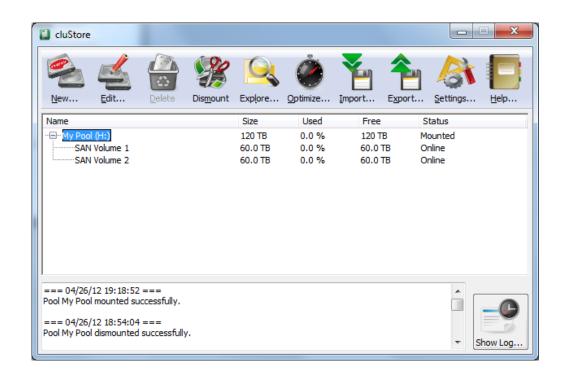
また、metaSAN/metaLAN環境ではどのワークステーションやサーバーからもペタバイトクラスのSANストレージに高速にアクセスすることができます。metaSANのDashboardコンソールは、定期的にそれぞれのワークステーションのストレージへのアクセス性能をレポートし、スタティステックにグラフ表示します。



ProjectStoreと呼ばれる新しいマネージメント機能は、管理者がWUIを介して、SAN共有ボリュームにプロジェクトを作成し、そのプロジェクトに編集、読み込み、削除のアクセス権限を持たせることができます。プロジェクトに参加するユーザーはそのプロジェクトフォルダー内のデータだけを、権限に応じてマウントすることができます。ProjectStoreはmetaSAN共有環境では見えない不可視フォルダーとして共有ボリューム内に作成されます。登録されたプロジェクトに使用する素材等を収納したプロジェクトフォルダーは、プロジェクトに参加するメンバーだけがローカルボリュームとしてマウントすることができます。それ以外のユーザーには不可視フォルダーとして、フォルダーをマウントすることができません。フォルダー内のデータには上書き権を持つユーザーのみがデータを編集することができ、他のユーザーは読み込むだけの権限が与えられます。このProjectStoreにより、不慮のデータ更新等の問題を解消することができます。



metaSAN v.5.0のリリースと合わせ、CluStoreボリューム仮想化ソフトを、metaSANにバンドルして販売することになりました。



CluStoreはMetadata Masterに接続されたSANボリュームの他に、USBドライブや、マウントされたネットワークドライブ等を共有SANボリュームに仮想的に追加することができるソフトウエアです。ボリュームを再初期化することなく新たなボリュームを追加したり、仮想ボリュームを構成する他のストレージに影響をあたえることなく、その一部のメンバーボリュームを切り離したりすることができるストレージの仮想化ミドルウエアです。CluStoreにはポリシーベースの仮想ボリュームマネージメント機能があり、ボリュームプールに追加されたドライブのデータを自動的に他の物理ボリュームに移動するマイグレーション機能や、ストレージプール内のアクセスの少ないデータを自動的に高速性能ストレージから低速性能ストレージへ移動する階層化データ管理機能がサポートされています。この新機能により、metaSAN / metaLANユーザーにとって、よりフレキシブルでスケールアウト可能なSAN共有ストレージという新しい付加価値が追加されます。

弊社ではご紹介したmetaSAN / metaLAN 5.0 および、CluStoreを 6 月よりご提供を開始する予定です。 ご期待ください。